
損保鑑定人が見た熊本地震

本震 10 日後に出発

私が熊本に調査に行くようにと連絡を受けたのは平成 28 年 4 月 18 日(月)の朝でした。

4 月 24 日(日)に住宅の定期総会を控えていたので、25 日なら出発できると伝え了解を取り付けました。飛行機の予約も終日取れなかったため、九州新幹線が開通したことを確認し、新横浜駅を早朝にスタートしました。

熊本に昼過ぎに到着してからすぐ調査に入りました。市内の道路のいたるところに被害に遭われた方の家財の数々が積んであり、店舗や住宅の多くがブルーシートで覆われていました。全国各地のナンバーをつけた緊急車両や貨物車が忙しく行き来していたのも各地の震災後の情景と同じでした。

宿は温泉宿か、他県のホテル

調査を終えて夕方 5 時ごろまでに事務所に戻り、その日の報告書を作成し、事務所を出るのは夜 8 時か 9 時、市内のホテルは宿泊できないためコンビニで弁当を買い、指定された温泉宿や他県で営業中のホテルに戻ります。夜の道路は楽ですが早朝から大渋滞で 4 月中は到着時間が読めませんでした。

5 月に入り熊本市内のホテルが営業を再開、食事はないものの通勤時間が短縮し、9 時には目的地で調査を開始できるようになり環境はずっと良くなりました。それでも仕事の遅い小生は三食ともコンビニのお世話になりました。

調査に行っている間にも度々余震を感じましたが、思わず立ち止まるのは震度 4 以上でした。

震度 7 が 2 回の恐怖

最初の地震は 4 月 14 日 21:26 頃 益城町で震度 7、震度 5 弱以上は熊本県の各地、2 度目の本震は 4 月 16 日 1:25 頃 益城町、西原村で震度 7、震度 5 弱以上は九州各県や他にも及びました。調査に行った先で「やっと片付けたのに、2 度目の地震でもっと激しく壊れた」「熊本で地震に遭うとは考えてもみなかった」という言葉を数多く耳にしました。

また、被害の大きい地域の皆様が、避難先から自宅に戻って調査に立ち会ったり、病人の介護の合間に時間を空けてくださったり、今を懸命に生きている被災者の方々が逆に我々を労ってくださるなど心打たれる場面もありました。迅速にその場で答えを出して、親切に正確に調査した内容を分かりやすくご説明するよう努めました。

調査の最終日、優美な熊本城の被災を車窓から驚き眺め、そこから近い西区のマンションの倒壊を見て言葉を失いました。立入禁止の張り紙、管理費・修繕積立金の引落とし停止、電気料金等の解約のお知らせ、引き出せず潰された何台もの車両を見るにつけ、21 年前の神戸のマンション被災を思い出し、居住者のこれからを案ぜずにはいられませんでした。一日も早い復興を心より願っております。

地震保険金支払額は 3,488 億円

一般社団法人日本損害保険協会の発表によれば、7 月 31 日現在熊本地震にかかる地震保険の支払件数は 225,989 件、支払保険金は約 3,488 億円となっています。被害は九州各県+その他で算出されますが、熊本県だけを見ると件数にして約 88.0%、金額にして 94.4%となります。

注(月が変わると最新の件数・金額が公表され、アンダーラインの数字は変わる)

同協会によれば都道府県別世帯加入率(地震保険)は、2014 年度集計で全国は 28.8%、熊本県は 28.5%とほぼ同じで、高いところは宮城県の 50.8%、低いところは沖縄県の 14.0%となっています。全体から見れば 1995 年 1 月 17 日の阪神・淡路大震災や 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の頃より加入率は増加していますが、さらに広く普及することが望まれます。(2014 年度まで公表)

宮井直哉(鴨居駅前住宅管理組合/浜管ネット理事)